

第16回 人権ショートレター 入賞作品 発表



人間らしく生きること、差別や偏見に対して感じたこと、お互いの個性を認め合うことなど、「人権」を大切にする気持ちを手紙に…。全国から228通の応募がありました。入賞作品を紹介します(佳作はタイトルのみ、敬称略)。

人権施策推進課(内線332・333)

小・中学生の部

最優秀賞 「せきをかわってよかったな」
大和郡山市 石阪 優季(7歳)
バスの中で、おかあさんが「うしろにうつろう」と言いました。白いつえをもった人がお金をはらって、わたしがすわっていたせきにすわりました。せきをかわっておいてよかったです。これからはわたしも気づきたいです。

優秀賞 「大丈夫いつも私がそばにいるよ」
大和郡山市 内田 憂里菜(12歳)
いつも1人のキミ。私はちがづくことができなかった。それはその子がイジメられていたから。私もイジメられてもいい。だからその子の所へいった、そして、大丈夫いつも私がそばにいるよ。といった。

優秀賞 「助け合う気持ち」
大和郡山市 青山 奈那(12歳)
みんながみんないっしょじゃない。人によって、できることとできないこともある。だから、みんな同じ空の下でたがいに助け合ってやさしい心の輪を作ろうよ。作ったらみんな笑顔でやさしい気持ち。

優秀賞 「笑うって…」
大和郡山市 廣 笑瑠(11歳)
あのね、人が笑っているのを見て思ったことがある。笑うってみんなが楽しい気持ちになる笑いばかりじゃなく、相手をいやな気持ちにさせる笑いがあるよ。私はみんなが楽しい気持ちになる笑いができたらいいな。

佳作

「私の中私」 大和郡山市 松田 彩来(11歳)
「手伝えなくてごめんね」 大和郡山市 稲田 鑑(8歳)
「生き方」 大和郡山市 川畑 尊(11歳)
「勇気を出し自分の気持ちを話す大切さ」 大和郡山市 藤森 美花(12歳)
「広島と長崎のみなさん」 大和郡山市 岡本 優月(10歳)

高校・一般の部

最優秀賞 「地域で育て、見守ろう」
香芝市 大西 玲奈(35歳)
「子どものすること」けんか?いじめ?見逃さないで、見届けよう。見送らずに、なるべくその場で気持ちを伝え合おう。「よその子だから見ないふり」より「そこにいる大人」として、問いかけよう。「どうしたの」で。

優秀賞 「識字学級 初めての教室」
大和郡山市 匿名
教室の前で胸がどきどきドアを開けると先生二人と生徒三人で手招きと笑顔いっぱい迎えて下さいました感謝してますあれからもう五年すぎましたあの時の嬉しかったことは一生忘れません毎月の識字学習が楽しみです

優秀賞 「自閉症の私へ」
静岡県磐田市 匿名
どんな私だって私は大好き。虐められたって、保健室登校になったって、セクシャルマイノリティーだって、人間関係がうまくいかなかったって、それでも永遠に私は私の味方。好きだよ。

優秀賞 「同じ境遇の君へ」
東京都立川市 西村 勇輝(27歳)
寝たきりの僕。就職できず、友人も離れていく。兄ちゃんが在宅のネットビジネスを教えてくれた。初めての収入を得た時。家族みんな涙して喜んでくれた。君だって働ける!体は動かずとも、心は動いているのだから。

佳作

「知ってほしい」 大阪府羽曳野市 近藤 己順(34歳)
「つらい時はつらいと誰かに伝える大切さ。」 吉野郡大淀町 下田 梨乃(17歳)
「差別って何ですか。」 大和郡山市 市山 幸子(82歳)
「無自覚」 名古屋市天白区 水谷 紗愛(18歳)
「嬉しかった言葉」 熊本県阿蘇郡 中山 智恵(27歳)

廣 告 欄